



【 精神障害2級に医療費助成 】

茨城県は新年度から精神障害者保健福祉手帳2級を持ち、かつ中度の身体障害や知的障害を有する方に通称「マル福」適用を拡大し、龍ヶ崎市はこれに伴い同制度を実施することになり、同様に近隣の市町も実施の運びになると見られます。

県下の当事者・家族会・支援者の長年の願いが一部叶いましたが、精神障害の手帳2級所持者は13,330人(2021年度末)、今回は、身体障害者手帳3,4級または療育手帳B判定に該当された方(IQ50以下)を併せ持つ方450人の拡大にとどまると見られ、他障害とのマル福受給率の格差がいまだに大きく、先進県の仲間入りとは言い難い状況です。

これを機に、医療費助成の他県における拡大や底上げの動きも見守って行きたいと考えています。
(竹之内 啓吾)

【 県南ブロック研修会に参加して 】

演題：みんなねつとの家族相談員をして見えること

講師：公益社団法人全国精神保健福祉会連合会相談員 野村忠良様(ご自宅からウェブにての講演)

参加者：34名(ウェブ3名、当会11名) アンケート回収25名

生い立ちは、お母様が次女(7歳)の猩紅熱による急死がきっかけで統合失調症を発症し、ご近所とのトラブルなど少年期から苦悩の日々を送られ、小中の不登校や引きこもりなどのなか、人との出会いで猛勉強し大学へ。インド哲学や仏教に関心を持ち大学は5年で除籍になるが、その後、知的障がい者施設で16年9カ月働き、その次に精神障がい者の作業所で16年3カ月働いた。

厳しい状況の中で心が安定してきたのは50歳を過ぎてからとのこと。家族会には30年以上運営に関わって今がある。生きる苦しみが多様化して現代、日本の政治は相談から浮かび上がる問題に無力で、当事者と家族は希望を失いかけています。政治経済や社会問題、環境他全てにおいて不安な昨今、社会の精神環境はますます悪化し、精神疾患が急増しつつある。

過去の一般市民は、宗教が大きな影響を及ぼしていた。地球環境にも警鐘ならし社会が危うくなっても、皆が幸福に安心して生きられるよう、自分の意識や生き方を自分なりに改革すること。

すべての存在するものには尊い精神性がある。すべての人間には神仏のエネルギーが宿っているからお互いに尊く対等な人権もあるとも仰っていた。(次頁に続く)

これまでの主な活動(1-3月)

月日	項目	場所
1月19日	コミュニケーション障害研究会	市民活動センター
1月15日	県南かれん	総合福祉センター
1月20日	家族会懇親会	市民活動センター
1月27日	役員会	市民活動センター
2月3日	定例会	市民活動センター
2月7日	コミュニケーション障害研究会	市民活動センター
2月12日	牛久市障害者連合会講演会	牛久市中央生涯学習センター
2月15日	県南ブロック研修会	牛久市中央生涯学習センター
2月16-17日	りゅうがさき市民活動フェア	サプラ
2月24日	役員会	市民活動センター
3月2日	定例会	市民活動センター
3月6日	コミュニケーション障害研究会	市民活動センター
3月11日	県南かれん	総合福祉センター
3月16日	婦人茶話会	市民活動センター
3月30日	役員会	市民活動センター
3月30日	ゆっくら評議員会	ゆうあいワークイン



今日一日は神仏からいただいた宝物、この美しい地球の上に誕生し、いろいろ苦しみはあれど、毎日感謝し、みんなの苦しみが癒されて安心できるよう、宇宙のエネルギーの流れに添って自分の役割を果たせるよう祈って暮らしていると話されていた。宇宙の視点から考えが及ばなかったが凡人の私でも少し合点がいった。

いろんな体験をしてきたからこそ、良き相談員として活躍されているのだと思います。また相談者とは親友になることと話されていましたが、野村様が好々爺らしい優しさが漂っているので安心してお話されている様子がうかがえました。

お話の内容が壮大で素晴らしかったですが、もう少し相談事例を伺いたいと思いました。
(副会長 土屋恒子)

【 大人の発達障がいについて 講演会 】

2024年2月12日、牛久市障害者連合会は、茨城県発達障害者支援センター・Colorsつくばの相談支援担当の金子由香利さんを招き表記の講演会を開催、牛久の家族会(ぬくもりの会)のお誘いもあり参加しました。

同支援センターは、発達障害やその疑いがある方、その家族および関係機関に対し、医療、保健、福祉、教育、労働などの関係機関と連携して支援ネットワークを作って、支援者への支援も含め様々な相談に応じ、指導や助言を行っているようで、センターは県内に2カ所、Colorsつくばは県南を担当しています。センターに寄せられる相談の6割超が成人期の相談で、現在の生活に関する事や家庭でできることを知りたいという相談が最も多いそうです。

金子さんは社会福祉士であり精神保健福祉士。金子さんによれば、総称して発達障がいといわれるものの症状により様々な診断名が混在し、場合により併存もあり、例えばコミュニケーションの障害やこだわりが特徴的な自閉スペクトラム症(ASD)で、かつ多動・多弁(じっとしてられない)やあきっぽさが特徴的な注意欠陥多動性障害(AD/HD)でもあるとの診断を受けたり、年齢や環境により目立つ症状が違ってくるので、診断された時期により診断名が異なることさえあるそうです。

暗黙の社会ルール、例えば女性には優しく接しなければならないとかがわからない点で生活上の支障が生まれ「障害」になるなど、日本文化にはこのようなルールが多いので障害になりやすいというお話、また男性の患者は女性の4倍だが、これは過少の統計で、社会的に家の奥にカモフラージュされている、というお話もありました。これをうかがい、精神科医で作家の故なだいなだ氏の一連の著作を思い出しました。世の中の(こころの)常識からみて、異常というものが決まる、常識は社会の進展に伴い変化し、これに伴い異常の内容も変わるものだと説いています。

言外のメッセージをくみ取るのが苦手な方もいることがわかったら、私たちはどうすべきか。現状ではこの特性との付き合い方を学んでいくことになるなかで、言葉使いを反省・工夫し、言葉にこころをこめ、アイコンタクトや身振り手振り、5感も動員し、つながりたいあなたとのわかちあえるひと時が生まれる生活を目指す努力を惜しまないのが幸せづくりにつながるのではないだろうか、と考えました。(K・T)

【編集後記】

龍ヶ崎市市制施行70周年記念式典に参加、当市に近いオリンピアン、気象予報士と市長の対話が生まれました。「持てるエネルギーは出し切らないと(次のエネルギーは)入ってこない」、「自分に負けないこと、限界への挑戦」という言葉がアスリートらしいと思いました。障害を持つ人への支援を適切に充実し、誰もが安心して暮らせる地域づくりにこれまで以上に取り組み、未来に繋いでほしいものです。
(K・T)

これからの予定(4月-)

月日	項目	場所
4月3日	コミュニケーション障害研究会	市民活動センター
4月6日	定例会	市民活動センター
4月20日	婦人茶話会	総合福祉センター
4月27日	役員会	市民活動センター
5月8日	コミュニケーション障害研究会	市民活動センター
5月11日	家族会総会	市民活動センター
5月13日	県南かれん	総合福祉センター

